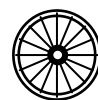


平成25年

4月



自転車文化センター 友の会だより



春の号

(第22号)

5月は、自転車月間です！



参加者募集!!

自転車健康クッキング・ライド

～乗って、学んで、食べて健康！～

新緑が美しいGWの都心を、自転車でぶらぶらお散歩＝“散走”しませんか？

日時 2013年5月4日(土・祝) 10:00～16:00(解散予定)
 参加費 6,000円(自転車・ヘルメット、グローブレンタル料・昼食代・保険料込)
 集合・解散 OVE南青山(東京都港区南青山3-4-8 トレディカ1F)
 コース OVE南青山スタート～東京名所周遊～OVE南青山でランチとお話し
 ～聖徳記念絵画館前「サイクルドリームフェスタ2013」～OVE南青山
 定員 15名(先着順)

◇雨天の場合は、OVE南青山にて、お食事とおはなしのみになります。
時間 12:00～14:00 / 参加費 3,000円

◎詳細・お申し込みは、同封のチラシ、webをご覧ください。

<http://bpaj.or.jp/bikemonth/cookingride.html>



5/4
雨天順延
5月5日(日・祝)
土・祝
10:00～16:00
入場無料

サイクルドリームフェスタ2013

～まるまる1日 自転車のこと 楽しみながら学べるよ！～

自転車を安全に楽しく乗っていただくための、楽しいイベントが盛りだくさん。
ぜひご家族・ご友人、お誘い合わせのうえ、お出かけください。

日時 2013年5月4日(土・祝) 10:00～16:00 雨天順延：5月5日(日・祝)
 会場 聖徳記念絵画館前通り(東京都新宿区霞ヶ丘町)

- ◎ピーポ君交通安全教室／自転車乗り方教室<協力：警視庁四谷署>
- ◎交通安全子ども自転車実演<協力：警視庁高尾署>
- ◎自転車キッズ検定<協力：日本マウンテンバイク協会>
- ◎自転車体験試乗会(高級スポーツ車・電動アシスト車)
- ◎おもしろ自転車試乗会<協力：(一財)日本サイクルスポーツセンター>
- ◎発電自転車コーナー
- ◎自転車メンテナンス講座
- ◎協賛社ブース展示 など



安田大サーカス団長
トークショー!!
13:00～

16th TOUR OF JAPAN 開催！

5/19～26 堺・美濃・南信州・富士山・伊豆・東京

UCI（国際自転車競技連合）公認、自転車ロードレース「TOUR OF JAPAN」が開催されます！
今年から、UCI アジアツアー2.1 にクラスが上がりました。全6ステージ、総走行距離581.85 kmで、熱戦が繰り広げられます。お見逃しなく！

第1ステージ5/19(日) 堺 2.65 km(個人TT)	第4ステージ5/24(金)富士山 11.4 km (ヒルクライム)
第2ステージ5/21(火)美濃 160.7 km	第5ステージ5/25(土)伊豆 146.4 km
第3ステージ5/22(水)南信州 148.0 km	第6ステージ5/26(日)東京 112.7 km

◎詳しくはホームページをご覧ください。 <http://www.toj.co.jp/>

会員特典！ 5/26 東京ステージ、TOJ オリジナルグッズ販売テント(大井ふ頭フィニッシュ地点付近)
友の会会員証を提示された方に、**プログラムを無料で差し上げます。** さらにTOJオリジナル
グッズを**割引価格**でご購入いただけます。ぜひご来場ください！

入場無料

自転車博覧会 in AOYAMA ～自転車史のタイムトラベル～

自転車の起源は、1810年代にカール・フォン・ドライス男爵がドイツで作った「ドライジーネ」と呼ばれる地面を足で蹴って走る二輪車に始まると言われています。本博覧会には、自転車文化センター所蔵の希少な車種も出展しております。自転車の歴史を学び、またアートな側面からも楽しんでいただける博覧会です。ぜひお立ち寄りください！

会 期 2013年4月26日(金)～5月26日(日) 11:00～19:00
会 場 伊藤忠青山アートスクエア (東京メトロ銀座線「外苑前」駅より出口4aより、徒歩2分)
(東京都港区北青山2-3-1 シーアイプラザB1F03-5772-2913)

◎詳しくは、ホームページをご覧ください。 <http://www.itochu-artsquare.jp/>

◇自転車文化センターによる親子向け「自転車科学教室」開催！
4/27(土)、5/4(土・祝)、5/5(日・祝) ①12:00～/②14:00～(約40分)

◇自転車ツーキニスト疋田智氏 トークショー 5/10(金) 18:00～19:00



女性用ドライジーネ



アメリカンスター



昭和天皇愛用三輪車

明治の女学生 自転車通学奮闘記

自転車文化センター学芸員 谷田貝一男

明治36年2月から9月まで読売新聞に小説「魔風恋風」が連載されました。ヒロイン萩野初野が颯爽と自転車で現れるところから話は始まります。「鈴の音高く、現れたのはすらりとした肩の滑り、デートン色の自転車で海老茶の袴、髪は結流しにして、白リボン清く、着物は矢絰の風通、袖長ければ風になびいて、色美しく品高き十八九の令嬢である。」(写真1)

この可憐な乙女が自転車に乗る姿が流行となり、その姿が当時の様々な広告に使われました(写真2・写真3)。

ところが明治38年当時の女性の利用者数を見てみると(表1)の通りで、これが全てではないにしても同じ明治38年の東京府下の自転車台数7587台と比較しても女性の自転車利用は一向に進んでいないことがわかります。女性の自転車利用の低さには2つの理由がありました。1つは良妻賢母、女性は家を守るべきもので外に出て活動するものではないという従来への女性に対する男性からの既成概念で、自転車に乗る女性は生意気であるといわれ冷笑されるほど女性の地位の低さによるものでした。もう1つは自転車の価格が高く、所有できるのはごく一部の人たちだけでしたから、庶民は羨ましさや妬みが混在した気持ちを抱いていたことによるものでした。そんな状況が明治41年のある一人の勝気な女学生の自転車通学奮闘記から読み取れます。



(写真1) 明治36年2月から9月まで読売新聞に連載された小杉天外の小説「魔風恋風」が同年11月に単行本として出版されました。この絵は小説に登場する令嬢をイメージして描いたもので挿絵として単行本に組み込まれているものです。



(写真2) 明治37年の染物屋のチラシです。



(写真3) 明治38年頃の古着屋と金物屋の共同チラシです。いずれも(写真1)の挿絵の影響を受けていることがわかります。

学校関係	女子大学校	13人
	音楽学校	8人
	虎ノ門女学館	89人
倶楽部関係	三田輪友倶楽部	20人
	櫻輪会	2人
芸妓関係	新橋	3人
	芳町	4人
	柳橋	2人
	赤坂	6人
その他	浅草公園	8人
	北郭の遊女	27人
	自転車雑誌愛読者	40余人

(表1) 明治30年代における乗輪する女性の人数
「清輪 No.5」明治38年発行より

私は現在の足立区中央本町にある足立区役所付近に住み、御茶ノ水駅北側にある東京医科歯科大学にかつてあった東京女子高等師範学校へ通っている女子学生です。通学路は日光街道を南に下り荒川を渡り、千住、入谷を通して上野駅前へ出ます。そこから不忍池畔方面に曲がり中央通りに出て末広町を通して万世橋手前を西に曲がると学校に着きます。片道約12kmで最初の2年間は歩いて通いました。(図1)学校の始業は年間を通じて午前7時のため、自宅を出るのは4時でした。さすがに往復6時間の徒歩は辛く、父に自転車を買ってもらって通学するようになるのですが約40分から1時間ほどで通うことができました。しかし自転車に乗るときの姿は男女の区別がつかないように冬は父の二重回しと呼ばれる男性用コート(写真4)を頭から被り、夏は黒っぽい筒袖(写真5)を着ました。ところが如何せん自転車が女性用(写真6・写真7)であったため、女が自転車に乗って毎日通るというので、12kmの沿道ではその町々特有の冷評を浴びせ続けられたのです。



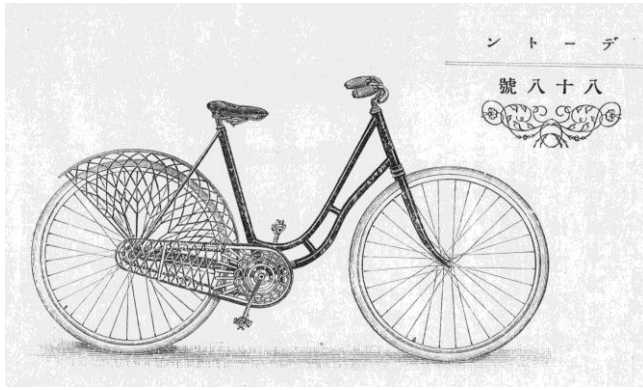
図1



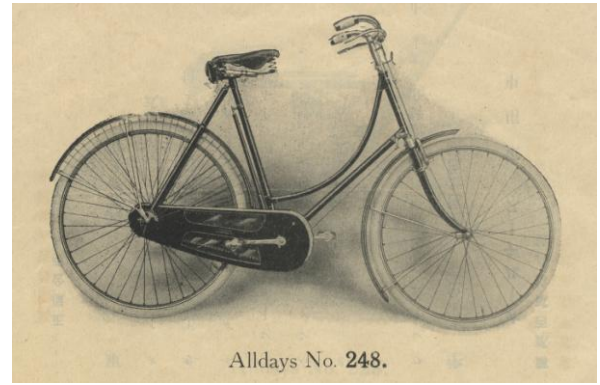
左 (写真4) 二重回しとは着物の上に羽織ることを目的とした和装用の男性向けコートです。このため色も黒が主です。
出典 http://ginger-garlicly.blog.so-net.ne.jp/blog/_images/blog/_6ac/ginger-garlicly/3087616.gif

右 (写真5) 袂(たもと)のない筒状の袖の着物で、大人の日常着や労働着として使われていました。
出典 http://thumbnail.image.rakuten.co.jp/@0_mall/champ/cabinet/ikou_20100310/img10362155189.gif?_ex=350x350&s=2&r=1

朝は6時前に自宅を出ます。しばらく走ると隅田川に架かる千住大橋の北側にある千住の青物市場を通ります。ここは幕府の御用市場として神田・駒込と並ぶ江戸3大青物市場の一つに数えられ、現在も東京都内唯一の水産物専門の市場として残っています。そんな青物市場は日光街道沿いに多くの青物問屋が軒を連ねたもので「やっちゃ場」とも呼ばれ、活気あふれる問屋街です。午前3時に市が開きますので、6時頃は活気のある時間でもあります。このため、ここを通るときは毎日市場の人たちから次々に頭を叩かれました。さすがにこれには耐え切れず、自転車から降りて警察官に保護してもらいながら通るようにしました。本当にこの時は苦しい毎日でした。ここを通れば学校まではどこも通行人が少ないので比較的楽でした。



(写真6)
 明治30年代に発行された双輪商会のカタログより
 アメリカ・デートン号自転車製造会社の女性用自転車88号で28インチ
 定価165円



(写真7)
 明治30年代後半に発行された石川商会のカタログより
 イギリス・オールデース自転車製造会社の女性用自転車第168号で26インチ
 定価170円

明治39年における巡查の初任給は12円、40年における大工の1日の手間賃は1円、米10kgは1円56銭(値段史年表 朝日新聞社より)であった。この金額と比較すると明治30年代で自転車を購入することができるのはごく一部の人だけであったことがわかります。

でもこんなことも時々ありました。上野駅前から末広町を通る中央通りには東京電車鉄道の路面電車(写真8・写真9)が走っていました。この路面電車の運転手が「速力の競走をしましょう」と声を掛けてくるのです。からかわれているとわかっていますので、つい競走などしないと思ってはいても電車の後に残されるのも残念で悔しいので、上野駅前の車坂から末広町まで一生懸命走ってしまいます。でもやはり電車にはかないません。電車の後尾に付いていくのも私は勝負で負けるのも悔しいので負けそうになると卑怯ですが、横町へ曲がってしまいます。



(写真8) 明治43年 日本橋通りを走る東京電車鉄道の路面電車

帰りは学校を6時に出ますので家に着くのは7時頃です。この時間帯はどこも人通りが多く朝よりも大変なことが続きます。ある日のこと、上野広小路を通ると前方で子どもたちが相撲を取っていました。ベルを鳴らすと子どもたちは左へ避けたのですが、その瞬間勝負がついて負けた子どもがよろけながら私の自転車にぶつかってきたのです。私は人通りの多い道路の真ん中にあられもない姿で投げ出されてしまったので、思わず「畜生」という荒々しい言葉が涙と共に出てしまったのです。子どもたちは悪いことをしたと思ったのかあっという間に逃げてしまいました。

また私は犬が苦手です。「ワンワン」と吠えられると怖くなってなかなか前に進むことが出来ません。毎日通る道ですからどこの家に犬がいるかということがわかっていますので、その家の前に来ると胸がドキドキして無事に通れますようにと念じながら通っています。ところがちょうどそのときにその家の子どもの出てくると私に意地悪をしようとして犬をけしかけて吠えさせたり、ときには犬を道路まで連れ出して私の進路をふさいだりすることもありますので大変困ってしまいます。犬のことではこんなこともありました。ちょうど下り坂に来たとき、前に犬がいるではないですか。坂の下には溝があるため、いつもは注意を払いながら下っているのですが、この日ばかりは「犬が、犬がいる」と思って焦ったため、見事自転車共々溝にドボンと浸かってしま

いました。幸い通行人はいなかったのですが、ご近所の人何事かと何人か出てきました。その人たちに濡れた姿を見られるのも恥ずかしいことなので濡れ姿のまま帰りました。

家の近くでは若い男の人が道路に立ちだかかってじっと自転車に乗る私を見つめていることもあります。そんなときに転んだりするのは外聞も悪いので慎重に運転します。でも他の所で転倒したこともあります。私の前をおばあさんが歩いているのでベルを鳴らしましたが、聞こえないように避けようとはしません。そのとき正面から馬車が勢いよく走ってきました。あぶないと思って避けたとき、運悪くおばあさんも同じ方向に避けたため、おばあさんを突き飛ばして私も転倒してしまいました。起き上がったときはおばあさんの姿がなく、1時間ほど探したのですが行方は分からず、私も怪我がなかったのがせめての幸いと思って暗闇の中を帰りました。

しかし、最も辛いことは毎日、沿道の男の人からの嫌がらせをされることです。特に上野駅から少し北に行った坂本から入谷あたりが最も激しく責められます。「何だい、この高襟は。」「生意気な奴、どやしつけてやれ。」「面は覚えているから次は覚悟しておけ」など汚い言葉を浴びせられます。また卑猥な言葉を言っではみんなで笑うのです。さらに休みの日に学校の図書館に行くときは何も持たずに自転車に乗りますので、「芸者が自転車に乗って行くぜ、当世だなあ。今日はどこで何があるのだ」と若い人から声を掛けられたときなどは悔しくて腹が立ち、言い返そうとも思いましたが、大人げないと思い、黙って唇をかみしめて通り過ぎたこともありました。

嫌がらせは言葉だけではありません。ときには家の中から石を投げられたり、水を掛けられたりしたこともありました。そのたびに自転車から降りて一人一人殴ってやりたいほど胸は煮え返っていますが、我慢して風のように通り過ぎていきます。

でもこの付近を通るときはいつも嫌なことばかりが起こるわけではありません。毎日通るので私を電話局の交換手と思ったらしく、「どこの交換局へ通っているのかな？ なかなか感心な女だな。」という声を耳にしたことがあり、思わず笑ってしまいました。

また学校近くの昌平橋近くを歩いていたら、「お姉さん、自転車はどうしたの。もう乗らないのかい。」といわれました。やはり女が自転車に乗ることはよほど目につくものだと妙なところで感心しましたが、注意さえすれば決して他人にケガをさせず、自分もケガをせず大変便利でよいものだと私は思っています。



(写真9) 明治44年発行「東都新築日本橋之図」
明治39年の東京市内における路面電車は路線によって異なる会社が運行していました。
上野駅前や日本橋周辺はいずれも東京電車鉄道が受け持っていました。

(参考文献)

「輪界」 輪界雑誌社 明治42年8月 第12号

◆◇特別展示のご案内◆◇

場 所 自転車文化センター情報室（科学技術館2F）
時 間 9:30～16:50（入館は 16:00 まで）

名探偵になれるか！「この自転車どこがなぜ違うのか推理してみよう！」展 ～平成 25 年 5 月 7 日（日）まで

いつも目にしている自転車とは違った形の自転車、珍しい部品を付けた自転車が登場します。どこかの部品の付いている箇所が違います。どこが違うのか見つけだし、どうして違うのか推理してみてください。変わった形の部品が付いています。どんな働きをするのか、その形から推理してみてください。3段階の難易度別になっています。あなたの正解レベルは迷探偵・本探偵・名探偵のいずれになるのでしょうか。ぜひチャレンジしてみてください。



次回予告

「日本のスポーツ・レジャー車の歴史」展 平成 25 年 5 月 11 日（土）～7 月 15 日（月・祝）

スポーツ・レジャー車といっても現代は利用目的が広がり、それに合わせてデザインや機能なども多様化しています。このためお気に入りの一台がなかなか絞りきれないという人も多くいるようです。かつての日本では運搬用を中心にした自転車造りが主でしたので、スポーツ・レジャー車の発展が欧米と比べると大変遅れていました。しかし国内や世界の経済・社会の動きに合わせた自転車造りが求められるようになるとスポーツ・レジャー車も少しずつ誕生し始めました。今から 77 年前に誕生した当時としては大変斬新なスポーツ車、57 年前のサイクリングブームの中で造られた自転車、60 年代から 70 年代の青少年があこがれた自転車など 8 台を展示します。カタログや当時の様子の写真などと併せて日本のスポーツ・レジャー車の歴史が簡単にわかるような特別展です。



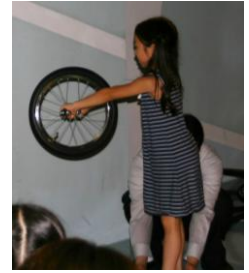
1974 年ロードマン



1936 年山口スポーツ

親子で参加！自転車科学教室

場 所	北ノ丸サイクル（科学技術館2F）
時 間	各日2回 ①11:30～／②13:00～（約20分）
参加費	無料（科学技術館の入場料は必要となります。） 当日（2F北ノ丸サイクル前）にて整理券をお配りします。
定 員	各回6組（先着順）



◆4月21日(日) 自転車の素材について調べよう！

通勤通学として駅まで利用したり、買い物として商店街まで利用したりする自転車の車体はほとんどがアルミニウムという材料でできています。ジュースの缶の多くもアルミニウムでできています。どうしてアルミニウムが多く使われているのでしょうか。ジュースの缶でもスチール（鉄）でできているものもあります。昔の自転車はほとんどが鉄でできていました。アルミニウムと鉄はどんな違いがあるのでしょうか。強さや重さなどを調べてみましょう。

◆5月19日(日) 車輪が傾いたときの動きを調べよう！

自転車の車輪を地面に対して垂直にして転がすとやがて傾いてきます。するとその車輪はどんな動きをするのでしょうか。走っている自転車がなぜ倒れないのかという理由の1つとして、ジャイロ効果という現象を簡単な実験で確かめてみます。

◆6月16日(日) ギヤの大きさとペダルをこぐ力の関係を調べよう！

坂道を上るときは平らな道を走るときよりもペダルをこぐのに大きな力が必要になります。そこでギヤの大きさを変えると平らな道を走るときと同じ力でペダルをこいでも坂を上ることが出来ますが、スピードは出ません。坂を上るときにはギヤの大きさをどうすればよいのでしょうか。また、どうしてスピードが出なくなるのでしょうか。いろいろな実験で確かめてみます。

「自転車ADRセンター」開設！

～自転車の事故・トラブルを話し合いで解決するお手伝いをします～

（一財）日本自転車普及協会は、平成25年2月21日法務大臣の認証を受け、「自転車ADRセンター」を開設しました。ADRとは、Alternative Dispute Resolution（裁判外紛争解決手続）の略称です。訴訟手続きによらず、民事上の紛争を解決する手続きの事です。裁判にくらべ、時間、コストがおさえられます。また非公開で行うため、秘密が守られます。

自転車ADRセンターでは、自転車交通事故を専門に取り扱います。自転車の事故・トラブルを話し合いにより、解決に導くサポートをいたします。専門的な知識を有する者が中立な立場で、申立人・相手方、それぞれの話を丁寧に聴き取り、双方が納得できるかたちでの和解を目指します。

◇自転車ADRセンターで取り扱う紛争は、3つです。

- ① 自転車と歩行者の事故
- ② 自転車と自転車の事故
- ③ 自転車による器物の損壊

※自転車の構造上の欠陥等による事故、対クルマ・バイクの事故は対象外です。

自転車ADRセンター



受付時間：月・木（午前10時～午後4時） ☎03-3583-2633

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-3 日本自転車会館3号館11階

（一財）日本自転車普及協会内 自転車ADRセンター

◆◇新着図書の紹介◇◆◇

「自転車街を変える」(秋山岳志著/集英社)

「所ジョージの世田谷ベース 21 所さんが生み出した新たな自転車の選び方」(ネコパブリッシング)

「折りたたみ自転車&スモールバイクライフ 2013 小さな自転車だからこそ楽しみたい輪行の旅」(辰巳出版)

「スチールバイクフリーク」 美しきクロモリ自転車の「魅力」と「知識」と「楽しみ」満載!(柘出版社)

「詩集女乗りの自転車と黒い診察靴」(細野豊著/土曜美術社出版販売)

「MTB 日和 vol.10 近くの広場から遠くの山まで、遊ぶ楽しさどんどん広がる!!」(辰巳出版)

「MTB 日和 vol.11 スクール特集:今よりもっと上手になりたい!!」(辰巳出版)

「MTB 日和 vol.12 “ユルーく” から“しっかりダウンヒル” まで!下りが楽しいMTB」(辰巳出版)

「MTB 日和 vol.13 十人十色の山スタイル 好評につき第二弾!!トレイルと人」(辰巳出版)

「Street Bicycle DIY CUSTOM BOOK 3 自分でできる!ストリート流バイクカスタム完全ガイド!!」(三栄書房)

「放置自転車ビジネス」開業マニュアル(稲本勝美著/ぱる出版)

「クロスバイク最新購入ガイド 主要 25 ブランドのバイク 120 台を一挙掲載」(コスミック出版)

「おとのさまのじてんしゃ」(中川ひろたか作・田中六大絵/佼成出版社)

「2014 年版 GO!GO!自転車 メーカー別クロスバイクカタログ」(成美堂出版)

「新版自転車トラブル解決ブック 自転車のあらゆるメカトラブルをこれ 1 冊で」(丹羽隆志著/山と溪谷社)

「最初の一台を選ぶためのブランド自転車カタログ 2013」(柘出版社)

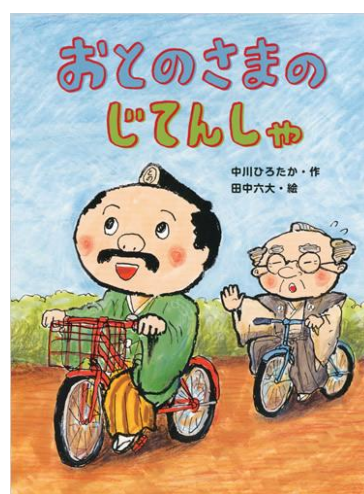
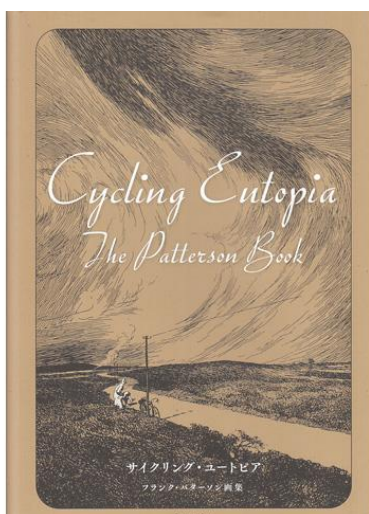
「自転車あるあるトラブル解決 BOOK 業界 NO1 自転車バカが教える!」(菊地武洋著/マイナビ)

「サイクリング・ユートピア フランク・パターソン画集」(フランク・パターソン著/野川政美編集/文遊社)

「ぐんぐん走ろう!東海自転車旅 愛知・岐阜 三重・静岡 福井・滋賀」(木村雄二著/風媒社)

「幸せをはこぶ天使のパン」(宇佐美聡子著/主婦と生活社)

「Rene HERSE THE BIKES・THE BUILDER・THE RIDERS」(JAN HEINE 著/Bicycle Quarterly Press,Inc.)



「友の会」会員証の更新は、お済みですか？

更新手続きがお済みでない方は、2F 情報室にて、会員登録
手続きをお願いします。新年度、初回は、科学技術館入館料
700円をご負担ください。

◇特典◇

- 2回目以降の入館が無料になります。(翌年3月末日まで)
- 地下1階レストラン利用が10%OFF ほか



◇◆◇自転車文化センターに寄贈された資料の紹介◇◆◇

- マツダ自転車工場 様 (東京都) 「National SUPER SONIC 24 型」1987 年
- 蔭山 真澄 様 (東京都) 「威力号 大貴商店」1955 年前後
- 松本 敦 様 (東京都) 「キーホルダー スポーツ祭東京 2013」

自転車文化センターでは寄贈された貴重な資料を大切に保存しております。
また特別展等にて多くの方々にご覧いただけるように配慮しております。

◇◆◇2013年度自転車文化センター(科学技術館)休館日◇◆◇

【4月】10、24日 【5月】8、15、22、29日 【6月】5、12、19、26日
【7月】3、10、17日 【9月】4、11、18、25日 【10月】2、9、16、23、30日
【12月】28、29、30、31日 【2014.1月】1、2、3日 【3月】5、12、19日

※8月、11月、2月は、休館日はございません。

自転車文化センター 友の会だより 春の号 (第22号)

平成25年4月15日発行



一般財団法人日本自転車普及協会 自転車文化センター
〒102-0091
東京都千代田区北の丸公園2-1 科学技術館内
TEL: 03 (3217) 1231
FAX: 03 (5224) 4558
E-mail: bccask@jifu.jp
URL: www.cycle-info.bpaj.or.jp

日本が生んだ世界のスポーツ



自転車文化センターは、競輪の補助を受けて事業を行っております。